

令和8年度第1回学校運営協議会

日付: 2026-05-08

場所: [東本郷小学校コミュニティハウス研修室]

会議のメモ

令和8年度第1回学校運営協議会の開始

- 高林会長が挨拶を行い、本年度も協力を呼びかけた。1年生のサポーターとして活動したエピソードを共有した。

委嘱状の交付と参加者の自己紹介

- 参加者へ委嘱状が交付され、氏名等の確認が行われた。
- 各委員による自己紹介。

新年度役員を選任

- 高林会長と相談の上、今年度も副会長は2名体制とすることが決定した。
- 地域コーディネーターの布施氏と、みどり支援学校の福田校長が新副会長に選任され、拍手で承認された。

学校長の挨拶と方針説明

- 堂腰校長が挨拶し、就任5年目であること、関係者と共に学校づくりができることへの感謝を述べた。
- 今年度の教職員の方針として、創立50周年を機に「感謝」と「つながり」を実感し、未来の社会を作る気概を持つことを重視すると説明。
- 本日の議題は、学校の運営方針（グランドデザイン）の説明と、それに対する同意を得ることであると述べた。

学校経営方針とグランドデザインについて

- 学校経営方針: 対話（熟議）を通じて意見を伺い、教育活動を共に作っていくことを重視する。

- **グランドデザイン:**
 - 学校教育目標を具現化する。
 - 50周年を機に「感謝の気持ち」、子どもたちの「主体性」や「粘り強さ」を育てる。
 - 子どもの「その子らしい成長」を最優先し、認め合いの文化の中で安心して挑戦できる環境を築く。
 - 大人が学び続ける姿勢を大切にする。

- **3つのミッション:**
 - **ミッション1:** 自立した学習者が育つ授業づくり（子どもが自分で決め、選ぶことを大切にする）。
 - **ミッション2:** 「小さなできた」を積み重ね、自分づくりに向かう姿を応援する。
 - **ミッション3:** 地域と響き合う学校づくり（50周年を機に感謝の心を持てる子どもを育てる）。

NHKの番組取材について

- 東本郷小学校の取り組みがNHKで放送されることが報告された。
- 2026年5月7日に放映され、8日放送予定の番組予告編が共有された。
- 番組は不登校の低年齢化問題をテーマにしており、鴨居保育園出身の児童が登校時に保育士と交流し、気持ちを切り替えて教室に入る様子が紹介された。

チーム担任制の導入（6年生）

- 6年生で「チーム担任制」を試験的に導入。4クラスの担任に加え、チームマネージャーとして白鳥教諭が配置された。
- 白鳥教諭は全クラスに関わり、授業や保護者対応などを補助する。
- **効果:** 児童が相談しやすくなり、学年の足並みが揃い、担任の負担が軽減され業務が効率化された。児童からの評判も非常に良い。

教職員の「働きがい」についての議論

- いじめ対応などの業務を含め、教職員の働きがいがどのように評価されているかについて議論が行われた。
- 教員からは、生徒の「楽しい」「わかった」という声、チームで頑張れる環境、キャリアステージに応じたやりがい（若手：生徒との関係、中堅：行事成功、主幹：学校づくり）、生徒の困り感に寄り添い変化を感じるなどが働きがいとして挙げられた。
- ある参加者は、自身の左利きの経験から、つまずきかける子どもを理解し救う機会の重要性を語った。

地域と学校の連携について

- 学校が子どもたちをありのままに受け入れ、全教員が関わる姿勢が評価され、高学年が一年生に声をかけるなどよい変化が実感されているとの意見があった。
- 横浜市の第5期福祉保健計画がスタートし、東本郷地区のテーマ「未来につなぐ明るい東本郷」のもと、学校と共に歩む地域でありたいという意向が示された。
- 学校が地域や幼児教育施設に開かれており、相互の行き来がよい効果を生んでいると評価された。

児童支援に関する方針

- 今年度から児童支援を担当する家塚教諭より方針が共有された。
- 地域の皆さんと共に子どもたちの笑顔と安心を目指し、特にいじめの未然防止、早期発見、適切な対処に最も力を入れるとした。

次期学習指導要領改定に向けた意見交換

- 中央教育審議会が公表した次期学習指導要領改定の論点整理について説明があった。
- 多様な子どもを包摂する柔軟な教育課程を各学校が工夫して作る流れとなり、学校裁量でカリキュラムを編成できる「余白」が作られる見込み。
- これにより、学校ごとに教科の時数調整や「探究」のような新教科創設が可能になる可能性があり、学校には教育内容に関する説明責任が生じる。今後、どのような学習経験を提供すべきか議論していく必要があるとされた。

理想の教育に関するグループディスカッション

- **教育内容と学習方法:**
 - 探求活動、地域への働きかけ、共同作業、自己調整能力を育む活動の新設について意見交換が行われた。
 - 多くの子どもが塾に通い疲弊している現状から、総合的な学習の時間のような体験活動や異年齢交流を増やすことへの期待が述べられた。
 - 英語教育の時間を増やすべき、国語と算数は基礎として維持すべきとの意見が出た。
- **デジタル教育と実体験のバランス:**
 - タブレット活用で筆記機会が減少していることや、家庭でのゲーム利用などの課題が指摘された。

- 10歳までは実体験を重視すべきという意見が共有され、早期のデジタル体験のリスクが指摘された。
- **グループ発表:**
 - **共通意見:** 自己理解、自分で選べる学び、実体験の重視。
 - **具体的な提案:** 加茂自動車学校での交通安全教室、演劇の授業導入、学年を超えた縦割りでの探求活動など。

年間計画と予算

- **年間活動計画:**
 - **授業:** 子どもが学ぶ目的を掴めるようにする。
 - **豊かな心:** 異学年交流で自己有用感を育てる。
 - **いじめ対応:** 全員で見守る環境づくり。
 - **特別支援教育:** たんぽぽルームを安心できる場所として活用。
 - **安全教育:** 年間10回以上の避難訓練を実施。
 - **人材育成:** 主幹教諭を中心に若手教員の成長を支援。
- **今後の会議予定:**
 - **第2回(9月15日):** 全教職員との「熟議」(テーマ:「51年目どうする」予定)。
 - **第3回(12月22日):** スマイルコンサート見学、中間報告。
 - **第4回(2027年2月16日):** 外部評価。
- **昨年度決算報告:**
 - 児童の机・椅子更新など教室環境整備に重点を置いた。体育館改修に伴うイレギュラーな支出や擁壁補修工事があった。物価高の中でも予算執行を完了した。
- **今年度予算執行計画:**
 - 昨年度とほぼ同額。引き続き教室環境整備に力を入れる。